

<プログラム>

**混声合唱団
北声会**

第22回定期演奏会

1988.6.23(木) 6:30PM

岩手県民会館中ホール

後援ノ岩手県教育委員会
盛岡市教育委員会
岩手日報社
岩手放送
テレビ岩手
エフエム岩手
盛岡タイムス
NHK盛岡放送局
岩手県合唱連盟

- 指揮 牛越 恂
伴奏 渡辺 直子
- < I > 混声合唱による五つのセレナーデ 心のモザイク
作詩 若谷和子/作曲 湯山昭
- I 私は風に名前をつける
II 風のプロローグ
III 屋根うらの九月
IV 木枯らしのアリア
V クルク・ムック・ルップル
- < II > 千葉了道・伊藤正利 作品集より
- 1 啄木望郷 詩 宮静枝/曲 伊藤正利
2 川舟たうえおどりうた (沢内民謡)
採譜と編曲 伊藤正利
3 南部よしゃれ (岩手県民謡)
採譜 藤井清水/作曲 千葉了道
4 大漁節 (岩手県宮古地方大漁節による)
作・編曲 千葉了道
- < III > 混声合唱のための唱歌メドレー ふるさとの四季
- 故郷 高野辰之 詩/岡野貞一 曲
春の小川 高野辰之 詩/岡野貞一 曲
朧月夜 高野辰之 詩/岡野貞一 曲
鯉のぼり 文部省唱歌
茶摘 文部省唱歌
夏は来ぬ 佐佐木信綱 詩/小山作之助 曲
われは海の子 文部省唱歌
村祭 文部省唱歌
紅葉 高野辰之 詩/岡野貞一 曲
冬景色 文部省唱歌
雪 文部省唱歌
故郷
- < IV > オペラ合唱曲より
- 1 撒花の合唱 モーツァルト 曲
2 ホフマンの舟唄 オッペンバック 曲
3 オレンジは薫り マスカニ 曲
4 ポロヴェッツ人の踊りと合唱 ホロヴィン 曲
5 ジプシーの鍛冶の合唱 ウェルティ 曲

<指揮者・ピアニスト・役員>

名誉指揮者	千 葉 了 道	道 恂 子
常任指揮者	牛 越 直 子	渡 辺 直 子
ピアノ伴奏者	佐 藤 妙 子	矢 野 清 子
委員長	長 計	
副委員長		
会 長		
ハートリーダー	Sop. 金 寒 河 金	Alt. 矢 野 清 子
	Ten. 福 佐 金	Bas. 藤 豊 太郎
実行委員長		

<団員名簿・出演者名簿>

		< Sop >			
阿 部 隆 代 遠 藤 喜 美 栄	太 田 和 子	佐 藤 妙 子	太 田 和 子	佐 藤 妙 子	太 田 和 子
佐 木 裕 和 子	田 野 千 枝 子	田 村 裕 子	高 野 水	田 村 裕 子	高 野 水
駒 中 美 育 明 子	舘 崎 口 里 加 子	柴 中 藤 子		舘 崎 口 里 加 子	
藤 井 明 子					
		< Alt. >			
内 田 喜 代 子	鎌 澤 光 子	久 慈 世 智 子	久 慈 世 智 子	鎌 澤 光 子	久 慈 世 智 子
寒 河 江 喜 子	佐 々 木 寿 美 子	川 村 村 村	川 村 村 村	佐 々 木 寿 美 子	川 村 村 村
関 井 上 裕 子	千 大 和 光 子	藤 中 村	藤 中 村	千 大 和 光 子	藤 中 村
		< Ten. >			
尾 形 利 夫 高	佐 々 木 壮 一 高	高 間 木 直 弘	高 間 木 直 弘	佐 々 木 壮 一 高	高 間 木 直 弘
福 田 直 美	藤 村 野 佑 伍	松 坂	松 坂	藤 村 野 佑 伍	松 坂
		< Bas. >			
木 野 目 和 充 金	池 繁 久	佐 藤 原 洗	佐 藤 原 洗	池 繁 久	佐 藤 原 洗
照 井 隆 一 村	松 久	吉 田 久 五 郎	吉 田 久 五 郎	池 繁 久	吉 田 久 五 郎
松 田 中 佳 裕				池 繁 久	吉 田 久 五 郎

<主な活動> 昭和63年 1988年

- 9/13(火) 千葉了道先生ご逝去
- 9/18(日) 葬儀
- 10/23(日) 三曲演奏会賛助出演
- 11/ 3(木) 盛岡吹奏楽団演奏会出演
- 11/14(月) 千葉了道先生追悼演奏会出演



ご 挨拶

混声合唱団北声会委員長 佐藤 洸

今夕は、混声合唱団北声会の定期演奏会にお越しいただき、まことに有難う存じます。

名称も指揮者も一新して二年目、メンバーにも若干の出入りがあり、演奏にも何がしかの変化が見られるかと存じます。それがどんなものかは自分達ではわかりません。どうか昨年の演奏と聴き比べて戴き、卒直なご意見ご感想をお寄せ下さいましたら幸いです。ところで全日本合唱連盟理事長の石井欽先生は、今年の連盟機関紙の巻頭に「北方には北方の重厚な味、南には南の明るい声がある。それぞれにその良さを生かし、個性的で地域性のある合唱を目指していくのがこれからの行きかただ」とのべておられます。

まさに私共が二十数年来求め続けてきた精神です。今回のプログラムにも、育ての親である千葉了道先生、それに伊藤正利先生の作品（作詩宮静枝先生）を取り上げ、地域性を少し出してみました。

なかなかつかまえにくい目標ではありますが、今後とも努力して“北の声、を追求し続ける所存ですので、倍旧のご愛顧の程お願い上げましてご挨拶と致します。

1988年 6月23日

演奏会にあたって

常任指揮者 牛越 恂

「失礼」「すみません」「もう一回お願いします」…………… これは、練習中の指揮者の口から発せられる一番多い言葉である。これ即ち、指揮者がいかに未熟であるかを如実に物語る証拠である。指揮を間違え、合唱団の音楽性を妨げるなど、肝心の合唱練習よりも指揮の練習のための繰返しなので、団員のみんなには本当に迷惑のかけっぱなしの一年間であった。

しかし、団員の高い歌唱力と、このように本日の演奏会に幸せの限りだと思って

かかる上は、覚悟を決行く指揮でもよいから、う、精一杯の努力をしよう、
さて、こんなありさま会を迎える訳ですから、本どうか、未熟な指揮者に一切さい。また、今日の結果を今後
ますので、厳しく、かつ、暖かいご指導ご鞭撻をお願い致します。



自発性豊かな音楽性に助けられて迎える事ができたのは、本
いる。

め、合唱の後からついて音楽の流れを妨げないよう
と決意している。

ながら、こうして、演奏日の演奏に対するご不満は
の責任があるものと免じて下
の勉強のステップとして頑張り

最後に、アマチュアの団体が、このような演奏会をもつ事は、並大抵の事ではできず、多くの方々のご支援が必要です。今回、いろいろとご支援を賜りました団体ならびに各位に対して深く感謝申し上げます。